

山田の凱旋門

日露戦争の記念建造物
モニュメント



Z 旗

「皇國の興廢此の一戦にあり
各員一層奮勵努力せよ」
〔日本海海戦における東郷平八郎司令長官の訓辞〕



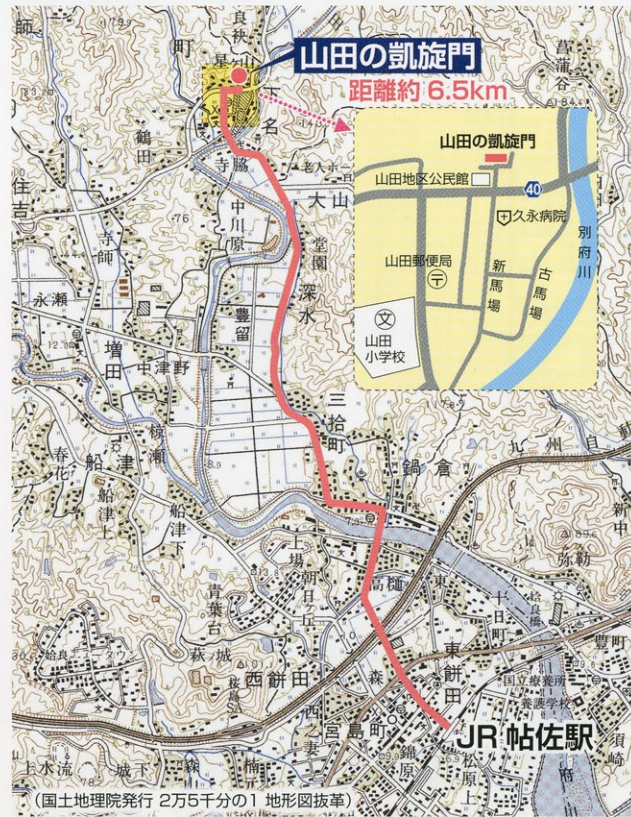
所在地：鹿児島県始良市下名1187番地
山田地区公民館横

始良市教育委員会



文化財登録
シンボルマーク

交通案内



- J R** 日豊本線帖佐駅下車（車で15分）
- バス** 南国交通「木場行き」役場前下車
- 車** 鹿児島市街地から50分
鹿児島空港から30分

文化財の登録制度について

文化庁や都道府県が行った調査で評価されたものや日本建築学会・土木学会などで評価されたものが該当します。文化財保護法第57条により、建造物として保存及び活用のための措置が必要とされるものを原簿に登録します。

発行 始良市教育委員会社会教育課文化財係
鹿児島県始良市加治木町本町 253 番地
Tel.0995-62-2111（内線 210）

山田の凱旋門について

この凱旋門は明治37・8年の日露戦争に、当時の山田村から従軍した人たちの無事な帰還を記念して、明治39年(1906)3月に山田村兵事会が建設したものです。『山田村郷土誌』によれば、山田村からの従軍者は、陸軍88名・海軍25名、計113名であったと記してあります。

石造りの凱旋門は、鹿児島が誇るアーチ式の石橋技術を応用したものであり、全国的にも大変珍しい貴重な文化財です。使われた石材は凝灰岩であり、言い伝えによると、上名の池平から切り出したといえます。昔は各地で石垣用に使われていました。また、石工は細山田ケサグマという人だったそうです。



日露戦争への道

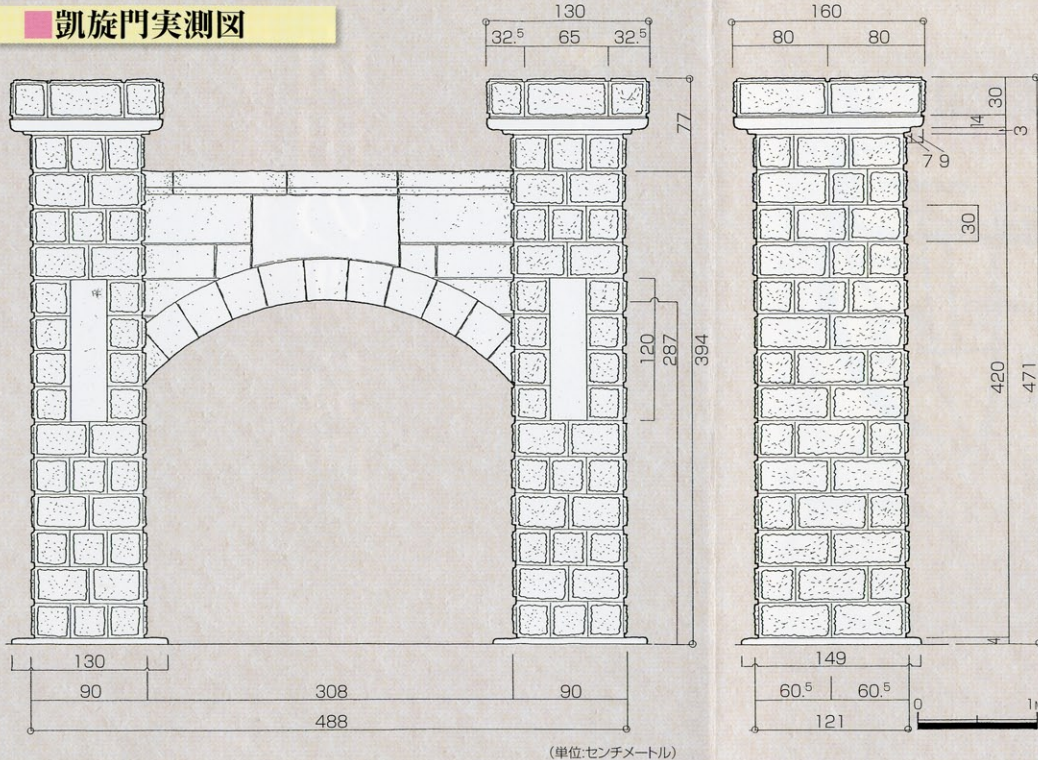
中国東北部や朝鮮における權益をめくり、日本はロシアの脅威を感じていましたので、1902年日英同盟協約が締結されました。ロシアが朝鮮に軍事基地をつくり始めると、日本国内では三国干渉への反発や国権の拡張を求める主戦論が高まってきました。

これに対し、内村鑑三は人道主義の立場から、幸徳秋水・堺利彦らは『平民新聞』で社会主義の立場から帝国主義戦争に反対しましたが、世論は開戦の方向へ傾いていきました。

日露戦争の開始

1904年2月、明治政府は交渉を打ち切り、宣戦布告をして戦争が始まりました。この戦争は翌年にかけて清（当時の中国の国名）の領土である満州を中心に関戦され、旅順や奉天では両国軍とも数万の死傷者を出す激しい戦闘が行われました。

凱旋門実測図

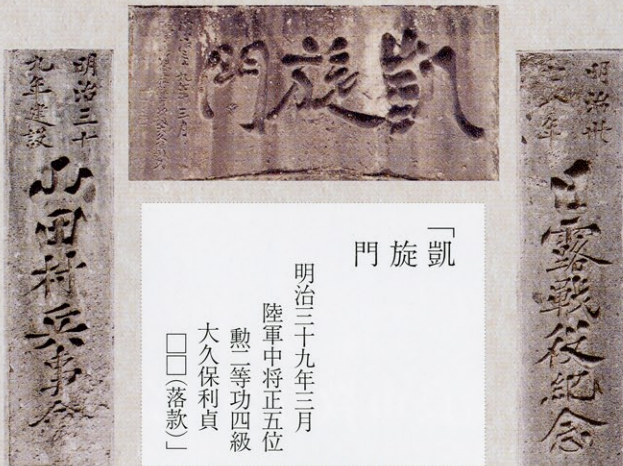


(単位:センチメートル)

構造 石造・高さ4.7m、幅4.9m

凱旋門上部アーチ型に生まれ、中央にタテ60cm・ヨコ121cmの石がはめ込まれており、次の文字が刻まれています。

刻銘



凱旋門について

両側の門柱には、(右)「明治廿七八年日露戦役記念」、(左)「明治三十九年建設山田村兵事会」と筆力のこもった見事な楷書体で刻まれています。

『鹿児島市史』によれば、「県は熊本・宮崎・沖縄三県と連合して鹿児島のいづろ通広馬場角に凱旋門を建設し、1月に竣工、3月12日より15日にかけて部隊の凱旋を迎えた」とあります。

山田の凱旋門も明治39年3月12日以前に完成し、山田村の従軍者たちは、実際にこの門をくぐり、凱旋祝いを受けたと想像されます。

東郷平八郎と日本海海戦

東郷平八郎の指揮する連合艦隊主力は、朝鮮南部の鎮海湾に待機し、明治38年5月27日早朝に出動。両国艦隊は沖ノ島付近で遭遇し、午後2時すぎから翌日にかけて数回の戦闘が行われました。

両国艦隊の兵力はほぼ互角でしたが、日本艦隊は砲力・速力・練度に優り、圧倒的勝利を収めました。ロシア艦隊は38隻中19隻沈没、5隻捕獲、病院船2隻抑留、残り12隻は逃走ののち、武装解除されました。司令長官以下約6千名が捕虜となりました。これに対して、日本は水雷艇3隻を失ったにすぎませんでした。

この海戦はトラファルガーの海戦以来、最大のもので、この結果、講和への道が開かれました。

海軍大将 日高壯之丞 (1849～1932)

壯之丞は宮内家の次男として嘉永元年に生まれ、のち鹿児島城下壱馬場の日高家と養子になりました。

明治35年(1902)に常備艦隊司令長官となりましたが、翌年には舞鶴鎮守府司令長官に転任しました。この更迭

人事は当時の海軍大臣山本権兵衛が行ったもので、後任に東郷平八郎を起用して連合艦隊を組織しました。転任を言い渡された日高壯之丞は、無念さのあまり短剣を抜いて山本大臣へ詰め寄ったといわれています。



ポーツマス条約

満州での戦闘と日本海海戦で日本は勝利を得ましたが、資金や弾薬が乏しくなり、戦争継続が困難になっていました。ロシアでも皇帝の専制に反対する革命運動があり、政府も苦しい立場に立たされていました。そこで、満州市場に関心をもつアメリカのセオドア・ルーズベルト大統領は、両国の調停に乗り出し、アメリカのポーツマスで講和会議を開き、1905年9月、日本全権小村寿太郎とロシアの全権ウイッテは条約に調印しました。

いづろ通の凱旋門 (1945年焼失)

日露戦争の終結後、全国各地で記念祝賀会や凱旋式が盛大に行われました。



鹿児島市のいづろ通広馬場の凱旋門には、歩兵四十五連隊が凱旋しています。

いづろの凱旋門は、正面が1連アーチ式であり、側面は2連アーチです。支柱が6本あり、屋根には6本の尖塔があり、木造漆喰塗の構造でした。

高さ13m・幅約9mと推測されます。

アーチ上部には、「祝凱旋」の文字があります。この凱旋門は、昭和20年の空襲により焼失したといわれています。



(「征露記念 薩隅日軍人名當肖像録 全」明治39年刊行より)